


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

建物概要				外観
建物名称	住宅型有料老人ホーム清龍新築工	階数	地上4F	
建設地	熊本県菊池市泗水町吉富字高畑21	構造	RC造	
用途地域	都市計画区域内、区域区分未指定	平均居住人員	50人	
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年	
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年12月22日	
敷地面積	4,648 m ²	作成者		
建築面積	850 m ²	確認日	2014年12月25日	
延床面積	2,250 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

BEE = 1.2 ■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

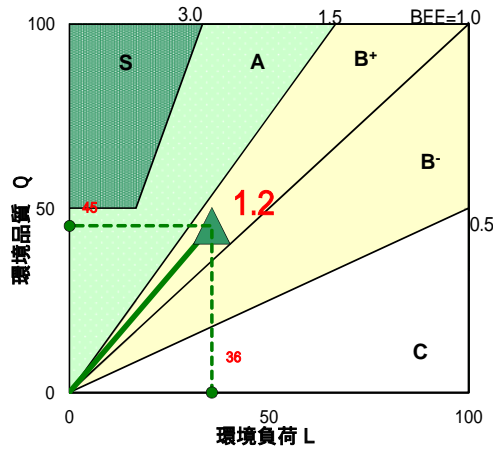
ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示) 排出率

☆☆☆☆☆ **84%**



2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点

★★★★★ **81**

重点事項	評価点	熊本県重点評価基準
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	85.6	判定値(評価点) ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	75.0	100点以上 ★★★★★
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0	80点以上100点未満 ★★★★
【重点事項4】 循環型社会の実現	84.7	60点以上80点未満 ★★★
		40点以上60点未満 ★★
		40点未満 ★

評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。
 使用評価マニュアル：CASBEE 熊本《新築》2010年改訂版Ver.2 (SPVBE対応) 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	住宅型有料老人ホーム清龍新築工	階数	地上4F
建設地	熊本県菊池市泗水町吉富字高畑2	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内、区域区分未指定	平均居住人員	50人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年12月22日
敷地面積	4,648 m ²	作成者	
建築面積	850 m ²	確認日	2014年12月25日
延床面積	2,250 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
 参照値: 100%
 建築物の取組み: 84%
 上記+ 以外の: 84%
 上記+: 84%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境 (スコア: 2.7)

音環境	1.9
温熱環境	1.6
光・視環境	3.1
空気質環境	4.1

Q2 サービス性能 (スコア: 3.0)

機能性	2.9
耐用性	3.2
対応性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 2.7)

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー (スコア: 3.7)

建物の	3.5
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.5)

水資源	3.0
非再生材料の	3.6
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.3)

地球温暖化	3.6
地域環境	3.3
周辺環境	3.1

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 81

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 86

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 75

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 85

重点事項の評価 (レーダーチャート)

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 'ライフサイクルCO₂'とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
住宅型有料老人ホーム清龍新築工事

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI対応)

評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei\

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境						2.7
1 音環境		1.8	0.15	2.2	1.00	1.9
1.1 騒音		3.0	0.40	4.0	0.40	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	4.0	1.00	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	1.0	0.40	
1 開口部遮音性能		1.0	0.40	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		1.7	0.35	1.5	1.00	1.6
2.1 室温制御		2.5	0.50	2.1	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		1.0	0.25	1.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		[共用部]ホール:2.5% [住居部]居室:2.4%	5.0	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.1	0.25	4.1	1.00	4.1
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		[共用部][住居部]F 使用、化学物質濃度測定を行う	5.0	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.0	0.30	2.6	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙	5.0	1.00	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		2.4	0.40	4.0	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		タイル貼(30年)	5.0	0.23	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用、Eは不使用	5.0	0.15	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			2.8	0.19		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20		
3	電気設備	・非常用発電設備・浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20		
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		
5	通信・情報設備		3.0	0.20		
3 対応性・更新性			3.1	0.29	2.8	1.00
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	2.6	0.50
1	階高のゆとり	【共用部】階高:3.7m 【住居部】階高:3.6m	4.0	0.60	3.0	0.60
2	空間の形状・自由さ	【共用部】比率:0.25 【住居部】比率:0.50	4.0	0.40	2.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			2.5	0.38		
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		
5	設備機器の更新性		1.0	0.22		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)				0.30		2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性						3.5
LR1 エネルギー				0.40		3.7
1 建物の熱負荷抑制		高効率設備機器	3.5	0.30		3.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率空調の採用	5.0	0.30		5.0
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	5.0			
		集合住宅の評価	3.0			
4 効率的運用			3.0	0.20		3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル				0.30		3.5
1 水資源保護			3.0	0.15		3.0
1.1 節水			3.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63		3.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、高炉セメント	4.0	0.20		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	壁・天井・軽鉄下地(分別可能)	5.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22		3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68		
1	消火剤					
2	発泡剤(断熱材等)	・現場発泡硬質ウレタンフォーム吹付けA種・グラスウール ・押し出し法ポリスチレンフォーム	5.0	0.50		
3	冷媒		3.0	0.50		
LR3 敷地外環境				0.30		3.3
1 地球温暖化への配慮			3.6	0.33		3.6
2 地域環境への配慮			3.3	0.33		3.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善		・見付面積比24.68%・隣棟間隔指標0.883 ・地表面対策面積率73.07%・外壁面対策面積率71.72%	4.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		
1	騒音		3.0	1.00		
2	振動					
3	悪臭					
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40		
1	風害の抑制		3.0	0.70		
2	砂塵の抑制		1.0			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドライン項目の一部を満足・広告物照明を行っていない	4.0	0.70		
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

敷地や建物各所に植栽を設け、良好な景観とした。

Q1 室内環境

屋根はグラスウール t 100、外壁はウレタン吹付 t 15を施し断熱性の向上を図った。
使用建材はF 製品とし、化学物質汚染被害を防止する。

Q2 サービス性能

多目的便所等の設備を各所に適正配置し、高齢者に優しい仕様とした
内装は、共用部分の腰壁は杉板堅羽目仕上、床は桧板仕上げとし温かみのある仕様とした。

Q3 室外環境（敷地内）

室外機器は、屋上に配置した。

LR1 エネルギー

外部窓には、太陽光を遮るカーテンを設置した。
節水型の機器やLED照明などを取り入れ、省エネ化を図った。

LR2 資源・マテリアル

乾式工法を各所に用い、分別化や再利用できるように配慮した。

LR3 敷地外環境

建物は境界から離し、近隣住宅地への日照、通風の障害を避けた。
また、車寄せや駐車場を設け、渋滞が起らないよう配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 住宅型有料老人ホーム清籠新築工事

評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

使用評価マニュアル: CASBEE熊本(新築)2011年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		81.2
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
温室効果ガス排出量削減の推進				85.6	0.40	34.24
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.05			
LR1 1	建物の熱負荷抑制	3.5	0.15			
LR1 2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1 3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3 2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
循環型社会の実現				84.7	0.20	16.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

重み係数の総和は、「1」であること。

各重点事項(~ の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

重み係数の総和は、「1」であること。

(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数